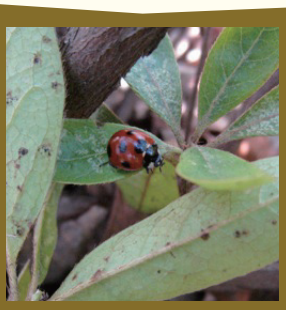
H.P.　http://koharusya.jp/biotope

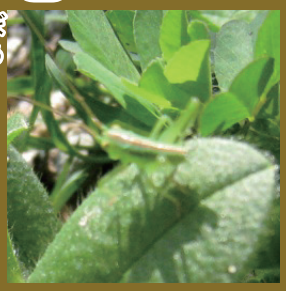
2012.05
第３号

Bio通信

向陽小学校のビオトープを考える会



用心棒は蟻



カラスノエンドウは、3月～7月頃、ちょっとした空き地でふつうに見られる野の草です。カラスノエンドウのくらしは、秋に発芽して冬を越し、3月頃からグングン伸びて花をつけ、6月ごろには種の入ったさやが実ります。さやが黒く熟すとパチンとはじけて種を飛ばし秋の発芽を待ちます。他の草が勢いを増す夏には見られなくなる草・・・

ということは、これから初夏が観察する絶好の季節ということ！

そこで、知ると面白いカラスノエンドウの身の守り方についてお話ししましょう。

植物の中には葉や花の芽の成長を守る「托葉」と呼ばれる小さな葉っぱの形をした器官を持っているものがあります。カラスノエンドウもそのひとつですが、葉や花の守り方が少し変わっているのです。

烏野豌豆

托葉の裏側をよく見ると、黒いつやつやした点「蜜線」があります。ここから甘～い蜜を出しています。ふつう蜜といえば花の中にありますが、カラスノエンドウは托葉から蜜をだすのです。

そのワケは・・・

気の強い虫・アリを呼び寄せて、他の虫から葉や花を守ってもらうのだとか。

カラスノエンドウに出会ったら、托葉の黒い点もチェックしてみましょう。

参考図書：大自然のふしぎ 植物の生態図鑑（学研）

P.2　寒い冬が過ぎて、春になりました
P.3　５年生（現６年生）のレポート
「ビオトープから環境を考えよう」
鎮守の森から
P.4　いきなりクイ～ズ
草地ミニ実験！
フラトンボ贈呈式
覗いてみよう！地域の環境保全活動
編集後記

寒い冬が過ぎて春になりました

文・写真　向陽小学校のビオトープを考える会
神松　幸弘

ジュウガツザクラとケシキスイのなかま

モモの花とニホンミツバチ

春の暖かな光を浴びると、冬の間に縮こまっていた体も自然と伸びて、心も軽くなります。今年の春もサクラが咲きました。サクラの花は1年にたった一度だけ咲きます。そして1週間ほどで散ってしまいます。けれども、サクラが咲くためにはその準備に長い時間がかかっているのです。今年の春にみなさんが見た花は、じつは去年の夏につくられ始めました。夏に花の芽ができ、秋を過ぎ、冬につぼみがふくらんで、春にやっと咲いたのです。花が散れば、サクラの木は葉を茂らせます。日光を浴びて、栄養を蓄えます。サクラたちは、もう来年の花を咲かせる準備をはじめているのです。みなさんは、4月になって入学や新しい学年に進級したばかりですね。みなさんの中で、来年の4月のことを考えている人はいますか？どんな1年を過ごすのか、サクラの木を見ながら考えてみてはいかがでしょうか。

タチツボスミレ

タンポポとフタホシヒラタアブ

春は生きものの　にぎわいの季節

サクラの他にも、春にはさまざまな花が咲きます。とくに、タンポポやスミレのように背の低い、小さな花が咲きます。どうして、小さな花は春に多く咲くのでしょうか。

植物には、チョウやハチなど虫たちに花粉を運んでもらい、たねをつくるものがいます。花が、きれいな色や形をしたり、いいにおいを出したりしているのは、虫たちを引き寄せるためです。

春は、森の中も草むらも日の光が地面にとどきます。まだ木々の葉も少なく、背の高い草が生えていないからです。小さな花にとって、地面が明るく開けているこの季節は、虫に見つけてもらうのに一番よいのです。また、虫たちにとっても地面の近くのほうが暖かくて、活動しやすいのです。

さまざまな花が咲き、虫たちが動き出せば、それをねらって、カエルやトカゲも現れます。ツバメのように南の国からの渡り鳥も飛んできます。春は、さまざまな生きものがにぎわう季節です。

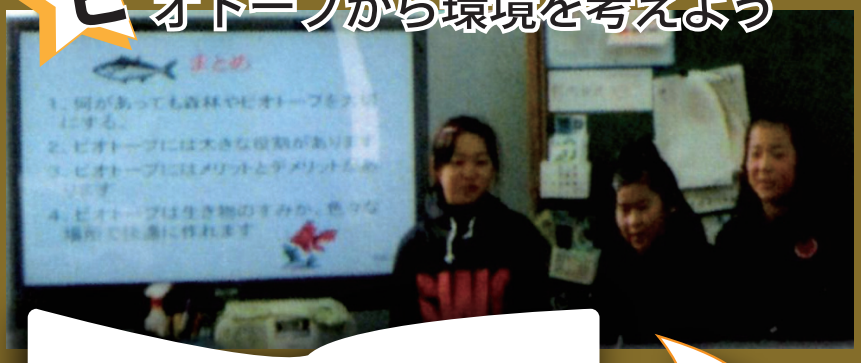
＊訂正とおわび：前第２号の２ページ下段の冬芽写真の種名が間違っていました。ヤマコウバシ X　☞　ナラガシワ ○

五年生の総合学習の時間で・・・

前年度、5年生（現6年生）の総合学習の授業で「京都から環境を考える」というテーマから、ひとつのグループがビオトープを取り上げまとめ学習をしました。「ビオトープにはどんな役割があるんだろう」

「ビオトープに棲む生きもの同士の関係はどうなっているんだろう」そんな疑問を持った子ども達が、ビオトープについて詳しく調べ、パワーポイントにまとめて発表したのでその内容を紹介します。

ビオトープから環境を考えよう



みなさーん
向陽小学校のビオトープを
見に行って下さ～い☆

① 生態系
② 意義とねらい
③ メリット・デメリット
④ 他の学校の活動
⑤ まとめ

【分かったこと】
① いろんな生きものがつながりを持ち生態系のバランスがとれている。バランスが崩れると生物は生きていくことが困難になってしまう。
② ビオトープは地域の人と生きものをつなぐ大切な役割がある。
③ 自分たちから環境について考えるきっかけになる。でも、置く場所や大きさなどを考えてつくらなければならない。
④ 第4錦林小学校では、月に2回せせらぎの流れを良くするために、草抜きや落ち葉を拾うという活動をしている。
⑤ ビオトープは生きものの大切なすみかである。

鎮守の森から

■第3話 御神木

向日山から京都盆地が一望でき、三川（桂川、木津川、宇治川）の合流地が見えます。弥生時代は戦の時代だったらしく、見晴らしの良い場所に軍事的集落を造り、狼煙で連絡をとり敵に立ち向かいました。

これを高地性集落といい、向日山にあった高地性集落は、大阪と奈良を結ぶ重要な役割を担ったと言われています。

本殿の北西角に室戸台風（１９３４年）で倒れた杉の切り株があります。向日山の木はこの台風で倒れ、樹齢百年を超える木はほとんどありませんが、勝山稲荷の裏にあるスダジイは二百年を超えているのではないでしょうか。

樹高１５m、幹周り４,５m、枝張り１８mで、鎮守の森で一番太く一番長生きしている木で御神木です。一番高い木は参集殿の裏にあるメタセコイアで、一番大きな木は本殿裏のクスノキですが、いずれも室戸台風の後に植えたか生えた木です。

文／写真　上田 昌弘

いきなりクイ～ズ

カラスノエンドウは葉を食べる虫から身を守るため、托葉から蜜を出しています。さて、何の虫を呼び寄せているのでしょうか？

☆ヒント
・この Bio 通信の表紙に答えがあるよ！

こたえがわかったら応募しよう！

＊正解は次の号でね☆

◎ 応募について

名前、学年、連絡先と３号／答え○ ○を紙に書き（書式自由）職員室前「フレンズランドポスト」へ投函してください。正解者の中から３名に鎮守の森の会 上田 雅二さん特製「フラトンボ」をプレゼント！　応募してね♡

当選発表　２号・１月の答え ➤➤ **ネコヤナギ**

応募数：７名

当選者：６年 和田 零さん　４年 山本 しゅんさん
２年 山本 けんたろうさん

おめでとう～！

草地ミニ実験

このまま刈り込みと観察を続けるよ ～(^^)/

草丈の長い芝地は芝だけ、刈り込んだ芝地からはカラスノエンドウがひと株、生えています \(^o^)/

なぜ刈り込んだところだけ生えたのだろう…？

推理　昨年の夏、カラスノエンドウは芝地全体に種を落とし秋に小さな芽をだしていた。刈り込んだ場所の芽は３月の成長期に十分な光を浴びることができたのでニョキリ伸びることができた･･･　という推理ができる！

フラトンボ 贈呈式 ♡

3月２２日に創刊号の「いきなりクイ～ズ」当選者３名へ、フラトンボの贈呈式を校長室で行いました。

フラトンボを作り提供してくださる上田雅二さんから直接もらい、大緊張～!!

覗いてみよう！
地域の環境保全活動

《乙訓の自然を守る会》

乙訓の自然を守る会は、代表／宮崎俊一さんが、この地域の雑木林の象徴ともいえる蝶・ウラジロミドリシジミの生息地を守る運動をきっかけに１９８３年に結成された、自然環境保全活動をしている団体です。

宮崎さんの想いに共感し地域の自然を愛する人々の輪は３０年という時と共に、今では会員数約４００人を有する京都有数の自然環境保全団体に成長しました。会の取り組みは、保全・調査や研究など各分野の専門家も参加し１９グループがテーマ別に活動をしています。

また、長岡京市、向日市、大山崎町、京都市西京区は西山から桂川一帯と地形的にも変化に富んでおり、保全対象も多様なため、他の自然保護団体とも協力することで、地域全体の自然環境保全に大きく貢献しています。

＊ショウジョウバカマ
2012.4.8 撮影
里山倶楽部保全地にて

そのグループのひとつである、里山倶楽部（光明寺付近の保全活動をしている）の方々に、保全の目指すところをたずねると、「今の私たちの暮らしに合った山林の利用と保全をみんなで考え、楽しんで管理作業をさせてもらっています」と語ってくださいました。これからの人と自然の関わりについて深い愛情と熱意がある取り組みをされている会だと思いました。

ホームページ ➤➤ **http://www.eonet.ne.jp/~sizen**
問い合わせ先 ➤➤ **otokuni.sizen@gmail.com**

＊会の活動に興味がでたら・・・
年間 12 回ほどの自然観察会やイベントは会員以外の方の参加もできます。

編集後記

今回「乙訓の自然を守る会」の取材をさせていただき、この地域の豊かさについて誇らしく思ったことがあります。

一般的に原生林より二次林と呼ばれる暮らしや農耕利用のために手を入れた里山環境の方が生きものの多様性があるといわれています。私たちが暮らす乙訓の自然はまさにその里山。例えば植物種の調査を比較すると、乙訓一帯の種数は 1316 種に対し、京都屈指の原生林の芦生の森は９４４種だそうです。

私たちが暮らしの中で豊かな自然の恵みを実感できるのも、長年の地道な地域の環境保全活動があるからこそではないでしょうか。

２回目の春を迎えたフレンズランド、この豊かな西山の自然を背景にどんな生きものが訪れる「場」となるのでしょう…

＊フレンズランドの掲示板にも、季節の生きもの紹介を掲示しています。ぜひお立寄下さい。

☆Bio通信に関するお問合わせ、ご意見ご感想などございましたらフレンズランドポストへお寄せください。

発行　向陽小学校のビオトープを考える会
HP：http://koharusya.jp/biotope
2012.04　編集 / 玉井 啓子